

HOKKOKU

北國

TODAY

2014 秋号 VOL.76



## 【特別企画1】

**佃の佃煮**

素材厳選と無添加を根本に  
法人化50年、新幹線で商機

## 【特別企画2】

**北伸福社会**

理事長胸像に一層の精進誓う  
「福祉の原点はやさしさ」永久に

## 【特別企画3】

**桂記章**

金工グッズのパイオニア  
企画から加工を一貫生産

## 【パブリシティ】

**自然人プロジェクト10年  
地域愛と自然愛にこだわり**

橋本確文堂

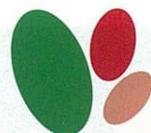
## 【講演抄録】

**北國総研創立20周年記念特別講演会  
日本経済の真相**

元内閣参事官、嘉悦大学教授 高橋 洋一

一般財団法人

創立20周年 **北國総合研究所**  
HOKKOKU GENERAL RESEARCH INSTITUTE



愛と美を創造する夢工房

桂記章 株式会社

# 金工グッズのパイオニア 企画から加工を一貫生産

桂記章株式会社（金沢市）は創業66年を刻む、バッジなど金工グッズの石川のパイオニアである。映画「ALWAYS 3丁目の夕日」を彷彿させる築40年余の本社・工場で働く社員は約50人。社章や校章を主にキーホルダー、賞牌ほか多品種大量の金属加工品づくりに励む。澤

田幸宏3代目社長の下、時流に乗った商品づくりを目指し、石川県のマスコットキャラクター「ひゃくまんさん」や来春開業の北陸新幹線新型車両「かがやき」など、「売れる」とみればタイムリーな題材をすぐ商品化するのが持ち味。企画から加工まで一貫生産の現場をレポートする。



女性6人がアイデアを出し合う知恵袋「ありん娘」の打ち合わせ=金沢市二ツ寺町の桂記章

こぶる好調であるからだ。ありん娘は「悦ちゃん」の愛称で親しまれる幸宏社長の母・悦子取締役経理部長が顧問、営業課の山岸理恵子さんがリーダーを務める6人組。社内の営業、生産の各部局から知恵を集めるため、積極的なアイデ



北陸新幹線の関連イベントに出店したひゃくまんさんグッズコーナー=JR金沢駅モ天守ドーム

知恵袋のありん娘

3年前の9月発足した女性社員6人の知恵袋グループ「ありん娘」が、このところ勢いづいている。というのは、今春、企画した石川県のマスコットキャラクター「ひゃくまんさんのピンバッジ、キーホルダー、根付けの売れ行きがす



①金沢経済同友会から発注された「ふるさとに、かがやきを。」バッジ  
②ひやくまんさんグッズと同様の3種シリーズの桂記章考案「北陸新幹線グッズ」

### 初快挙にやる気満々

ひやくまんさんグッズは、今春、3千個で発売と控えめな販売計画を立てたものの、これを「いや1万個は売れる」とすぐ上方修正した。8月までに2万個を出荷した。

この秋さらに1万個追加生産する。確かに「可愛らしさと高級感ある商品」（澤田悦子顧問）だ。ダメ形状の本体地は加賀の金箔張りをイメージした純金メッキ仕上げで、彩り豊か。パッケージの台紙は、提案主の山岸リーダーは涙ぐ

んで喜んだくらいである。それが今回は短期間で目標を突破したのだから、初の快挙に6人とも、本当にうれしそうでやる気満々。勢いに乗り、もう次なるひやくまん関連グッズを考案した。ミニひやくまんさん付きのボールペンと耳かきで、売価は600円（税別）と500円（同）。一風変わった取り合せだが、「また必ずヒットする」と6人の鼻息は荒い。

### ふるさとに、かがやきを。

北陸新幹線つながりで今夏、地元の経済団体・金沢経済同友会からピンバッジの注文が舞い込んだ。W7系の車両「かがやき」をあしらう、「ふるさとに、かがやきを。」のキヤッチコピーを刷り込んだ、まさにタイムリーな一品。これもまさに「ふるさとに、かがやきを。」でしょ。じやあ、その人たちを載せてくる、車両かがやきのグッズが売れないかしら。月に2回、6人がアイデアを出し合う場は当面、桂記章にとつて売り上げ増の打ち出の小づちの役割を果たすようだ。

### 売れるアイデアに期待

「北陸新幹線特需」はともかく、澤田社長が、自らにも社員にも課して呼びかけているのは、売れる商品を生み出すアイデアである。

それは、日常のちょっととしたひらめきや気付きがヒントになる。澤田社長が編み出した大判小判シリーズもその一つであろう。古銭の中でもひときわ、まばゆい輝きとともに存在感の大きいのが大判と小判。社長はこれに目を付けた。

### 悔しさをバネに

本体とした、ひやくまんさんと同様の3種シリーズである。悦子顧問が提案の口火を切った。「ひやくまんさんは、首都圏から来る人たちへのおもてなしのキャラクターでしょ。じやあ、その人たちを載せてくる、車両かがやきのグッズが売れないかしら。月に2回、6人がアイデアを出し合う場は当面、桂記章にとつて売り上げ増の打ち出の小づちの役割を果たすようだ。

この受注に先立ち、ありん娘は既に「北陸新幹線グッズ」を考案した。W7系新型車両かがやきを

もともと桂記章では、30年以上も前、先代社長の幸壯氏（現会長）

の時から、映画撮影所やテレビ会社から時代劇撮影の小道具として大判、小判の模造品を受注していた。それが5年ほど前から安価の中国製がのってきて、売上が大きく落ち込んだ。在庫はまだ五千両（二両小判で5千枚）もあったのに、「他力本願は断念した」（幸宏社長）。悔しさをバネに攻めの営業に転じた。「時代劇用は中国に任

せておけばいい。この黄金色の輝きと造り、重さを極めれば、桂記章製の大判小判が国内において愛好する人たちに、きっと買ってもらえる」

慶長大判を筆頭に慶長小判、文政小判、万延小判。これらの写真集や文献を参考に、精細な匠をパソコンで写し、型をつくって輝きと色、それに重さは何度も試作

を重ね、本物に近づけた。

今や、大判（一枚2万円）は年に約100枚、小判（一枚5~6百円）は月に約1万枚は売れるよう

になった。東京の新歌舞伎座では月に約5千枚は売れており、多い時には1万枚も売れるという。小判が単体で売れるのではなく、「これでよしなに」という名の菓子の箱に小判が1枚入っており、箱一つ売れるたび小判が1枚さばける勘定だ。歌舞伎鑑賞後の客の目に留まり、珍しさもあって、その存在が口コミでじわりと広がっている。このほか、カタログ通販

やJR電車の車内販売を通じても、その存在は国内に広く知れ渡りつつある。

## 干支シリーズも人気

大判小判シリーズのように年間、コンスタントに売れる商品をいくつも作るのが、桂記章の目下の課題である。これまでの実績で、毎年2月には、4月の新入社員向けバッジ注文がまとまって入る。5月から9月にかけては、イベント開催に伴うメダルやトロフィーなど表彰ものが一定量くる。10月から年末にかけては、ありん娘が考案した干支シリーズが売れ筋として、定着している。来年の干支である未のグッズも、既に携帯ストラップなど10種類が作られた。

こうした多品種大量の商品を生産するのが、二ツ寺町の本社・工場である。月産5百品目、20万個を出荷する。役員、社員は約50人



桂記章がこれまでにつくってきたバッジの数々

発案した大判小判シリーズの商品を前にした澤田社長=金沢市二ツ寺町の桂記章



## 桂記章株式会社

◎社章や校章などバッジ、キーホルダー、賞牌類など金工グッズ類の生産、販売。澤田幸宏社長。本社は金沢市二ツ寺町。創業66年。資本金4200万円。社員数約50人。決算期は9月。

10分で仕上がるシステムである。

### 伝統工芸の合わせ技を

社名の「記章」が示すように、桂記章の主管業務は、今なお「バッジづくり」にほかならない。全売上は95%。小物ではあるが、66年の信用が築いた金字塔と言える。この業務は今後も桂記章の主軸に据えると、澤田社長の言は揺るぎない。

もとも、時代に合わせて進化を遂げる現在の社の方針からすれば、新しい皮袋に新しい酒を盛つていかねばならない。それは何か。澤田社長が言い募る。

「石川県には、加賀藩以来の伝統工芸が多種多様にある。これら複数を合わせ技にした商品を開発していきたい」

だから、1人あたりの生産量は10品目、4千個とはじき出される。

### モノを言う経験と勘

桂記章は家内制手工業であると同時に、労働集約型、知識集約型の流れ作業が常態だ。工程は20ほど。型起こしから始まり、材料切



製品は小さいものの微に入り細をうがって仕上げる

多品種大量の製品一つひとつに精魂込める工程

人間国宝の数は東京、京都に次いで多く、澤田社長はその幾人かと親交がある。「喜びと感動の歴史を刻む」。社長就任から2年、幸宏社長は3代続いた手堅い経営を踏襲しながらも、次世代につなぐ持続性ある革新を真摯に探つて

断、研磨、メッキ、組み立て、包装など、小物を軸にありとあらゆる金工グッズを、66年間、先輩から後輩へと受け継いできた職人芸がこなす。手作業がほとんどだから、経験と勘がモノをいう。

一方で、IT(情報技術)の時代、先端機器の導入には投資を惜しま

れない。今回、ひやくまんさんを短期間で大量に生産、納品できるのは、「UV(紫外線)プリンター」のおかげである。この機械は、例えば金型にひやくまんさんの意匠を彩り豊かに焼き込む作業を、紫外線を照射して行う。一挙に120個のひやくまんさんの本体が約